



森のなかま

2009年1月号

NO. 9 (継続154)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功

新年おめでとうございます。
新しい年を迎え皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

NPO法人かながわ森林インストラクターの会
理事長 島岡 功

昨年は、NPOとして新たな思いで、NPO法人かながわ森林インストラクターの会に移行しました。会員の皆様の思いを達成すべく、会のコアとしての立場にある、理事、監事、各期から選出された幹事の皆様には、一方ならぬご尽力をいただいていたことに、心から感謝を申し上げます。又、各部会活動におかれましても、NPO法人としての意識の変革にとまどいながらも、方向性を意識した活動をされてきたことに、感謝いたします。

昨年の4月から9か月を振り返ってみますと、NPO法人の運営組織固めを目指してまいりましたが、やや今までの動きに流された感があり、20年度の、後数か月の間にまとめなければならないと、考えています。一方、公社、県をはじめとした関係機関、団体の方々には、新たなNPO法人を信頼し、各方面からお声かけをいただき、私たちは、新たな事業に協力できたことに感謝しています。

具体的には、成長の森保守管理事業、県産木材フェアでの水源の森林づくり事業のPR、水源林のつどい実施委託事業、水源林街頭キャンペーン事業、又、森林循環フェア、森のリレーフェスタへの協力などで多くの会員に活躍の場を広げることができました。又、会員の所属企業からも補助金をいただき、普及啓発事業に是非必要なプロジェクターを購入いたしました。

会の自立の面では、担当会員のご尽力により、会のホームページが出来上がり、関係機関ともリンクができ、会の活動を広くPRできる体制を作りました。又、共催自主事業として、「やどりき水源林から林道ウオーク（秦野峠への道）」を実施しました

十分な体制が整わない時期でしたが、水源林パートナーの方々にもご参加をいただき、事業企画委員会をはじめ自然観察部会、又、やどりき地域地元の方々など多くの皆様のご協力により成功させることができました。

平成21年度は、経済の世界的大変動の真ただ中に突入することが予想されています。しかし、そんな状況でも、私たちの会の活動は、森林や里山などの手入れをとおして、人と自然との共生を考え、森林の再生や自然環境の維持・保全を継続していくための普及啓発活動として、力強く推進していきたいと考えています。これは、多くの市民の皆様が期待していることではないでしょうか。

私たちの会は、大きなミッションを背負いながらも、安全で楽しく事業活動を推進するNPO法人として、市民の皆様にご信頼される団体を目指し努力していくことが、求められていると考えています。

今後も、関係機関の方々、各種団体の方々、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

やどりきの暮らし今昔 <第2話> 一寄の方々と交流会— 森林文化部会



○安藤彬さん（第2テーブル）
安藤彬さんは秦野高校の元校長で、現在は松田町社会教育委員です。その教育委員の活動の一つである「寄自然休養村ホテルを育てる会」の活動を懇親会開催に当たり、お話いただきました。地域における生涯学習の推進に関し、いくつかの活動が進められており、その一つである「寄自然休養村ホテルを育てる会」は、社会問題である温暖化等環境問題、青少年の健全なる育成を、住民主導で行い、住民が子供や孫に、郷土を誇れるように活動しているそうです。

安藤彬さんは昭和15年生まれの68歳だそうです。子供の頃は、寄村は自給自足で貧しい生活をしていました。その頃の楽しみは自然のものをおやつにしていたことが楽しい思い出だったそうです。春はスカンボ、サクランボ、キイチゴ、クマイチゴ、グミの実など、秋はアケビ、柿などを良く食べたそうです。冬はモチノキからトリモチを作り、ホオジロ、スズメ、を捕まえて焼いて食べたそうです。他にもヒキガエル、シマヘビ、マムシなども食べたそうです。子供たちはいつも群れて遊び、いつもお腹がすいていたそうです。今では限界集落で、年寄り夫婦だけで暮らす家が多くなっているそうです。専業農家は、1軒だけで、椎茸、舞茸、平茸など栽培して、跡継ぎも一緒にやっているそうです。

・**山仕事、畑仕事** 小学5年生から大野山の北斜面にあった小学校の学校林で、下草がりをした経験があるそうです。材木を売ってピアノや他の教材を購入するためだったそうです。村の産業は少しの水田と畑と林業。畑では主に薩摩芋、里芋、陸稲、葉煙草を、その他、三椏、養蚕の桑などを栽培していたそうです。落ち葉は、かき集めて堆肥に、杉の落ち葉は台所や風呂の焚き付けに使ったそうです。

・**暮らし** 学業を卒業すると跡取り（長男）は農林業だけでは食えないので、役場、農協小田急、国鉄など休みが取りやすい職場に勤め兼業農家をしていたそうです。その他の人は都会に働きに出たそうです。

・**炭焼き** 山は雑木林で薪炭用に15年サイクルで伐採していたようです。炭は炭俵につめられ、山から背負って運ぶのは子供達のアルバイトだったそうです。炭俵は農耕用の牛に引かせた荷車で開成町まで売りに行き、米と交換していたそうです。（つづく）



皆さん、明けましておめでとう。

— 唐沢山は語る —

飯村 武

第2次世界大戦によって、わが国の林野は極度に荒蕪した。戦後の林野行政は復興造林を軸としたもので、それは文句なく国民運動へと盛り上がって行った。目的の明確な林野行政がそこにあった。

下って1965（昭和40）年以降、用材生産を主軸としたわが国の林業は、そのあり方が問われ続けて今日に及ぶ。問われる契機となったのは1955（昭和30）年以降の燃料革命、技術革新、所得倍増・高度経済成長政策である。

それまで、我われの生活を支えていたエネルギー源は薪炭林であった。そのエネルギー源が化石燃料（石炭・石油）にとってかわり、薪炭林はお役御免となった。このような時代の激変に対して国は拡大造林政策を打ち出した。薪炭林・粗悪林の生産性向上のためスギ・ヒノキの用材林に転換するもので、これは高度経済策を象徴する方向であった。儲かる林業が声高らかに歌われ、造林地拡大へとまっしぐらであった。しかし、この方向もやがての自由貿易化の前に溜息混りとなり、曇天の日を抱えることとなる。このように、この半世紀の日本林業のたどった道を思い返していると、きまって愛甲郡清川村煤が谷地内の唐沢山で神奈川県が行った山村振興特別造林事業が思い浮かんでくる。

唐沢山は清川村民228名の記名共有林で面積は約570ha、コナラを主とする雑木林であった。この村には製炭^{なりわい}を生業とする者が多数いた。彼らは瘦馬^{やせうま}（しょいこ）を背負い、片道1.5時間^{あした}、朝に霜、夕べに星の唐沢通いが日課であった。現場では築窯、原木伐採、材の窯詰め、着火、消火、出炭俵装、運搬と。点火時にはほぼ1週間、現場に泊り込む。女衆（奥さん）は家事の合間に炭俵を編む。燃料革命・技術革新はこんな山村の暮し向きを直撃した。とりわけ深刻なのが次三男の失業であった。この実状に対して県当局は一案を計画した。分収契約（収益を一定の割合で分け合う）による県行造林で、薪炭林をスギやヒノキの用材林に転換する事業であった。これは国の拡大造林政策に一致するもので、同時に恰好の次三男対策の方途であった。山村振興の明るい展望がそこにあった。

現地に住宅を建て、次三男を優先して入植させることとした。ひと山越えた札掛発電所の電気を引き、ラジオ設備など文化生活を保証するものであった。1959（昭和34）年4月、県は20世帯について入植希望者を募った。瞬く間に満杯となり、県当局は笑顔であった。

しかし、笑顔は束の間、7月に入ってから希望者の取り消しが始まり、年末には零になってしまった。困った県は住宅建設を諦め、造林小屋1棟の建築へと計画変更した。

何故、希望者が突然零になってしまったのか。燃料革命、続く技術革新・高度経済成長政策により、京浜地帯の各種企業が神奈川県の内陸、とくに厚木・相模原方面にこぞって立地したのである。これらの方面と清川村は自動車ですら30分～1時間の通勤圏である。林業労働に比べれば魅力に富む職場が突然出現したのだからたまらない。地元労働力を失った県は、以降四苦八苦で福島、岩手、山梨等から労務を調達し、造林を進めることとなる。曇りがちの林業、そんな1965（昭和40）年代の初頭、共有林は土地の買い上げを県に申し込んできた。早速に林価算法を駆使して価格を弾いた。結果は数千万円であった。県との折り合いは不調に終り、今日の林業会社の所有となる。県は引き続き会社と分収契約を結び造林とその育成を進めているわけである。相模湾から川をたどって唐沢山に至るとすれば、馬入川・相模川・中津川：宮が瀬湖：中津川・唐沢川・上唐沢で、唐沢山は正に神奈川の重要水源地帯のド真ん中にある。伝統の萌芽更新と輪伐施業で山麓住民と共にあった薪炭林、そんな林に有史以来の燃料革命が直撃し高度経済成長政策が吹き荒れた。地方庁の現場に根差した知恵、次三男対策は水泡に帰し、地元は土地の売却を余儀なくされた。

唐沢山と似たり寄つたりの山村が、わが国の各所にあることは推察に難くない。せめてもと思った次三男を日本林業は引き止めることが出来なかった。いま、そのひ弱さが悔まれてならない。神奈川水源地帯のド真ん中、唐沢山はそんな事を語っている。



唐沢山周辺の山々

辺室山・物見峠・1の沢峠・

山菜を楽しむ

その10

春の七草

ハコベ

有田保彰

春の七草といえば、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ。

長い冬がようやく終わり、春を迎える喜びの一つが若菜摘みです。

毎年、年に一回でいいから食卓にのせたいと、セリやナズナのお浸し、ツクシの卵とじなどと同じように、ハコベを楽しんでいます。元旦の雑煮用にと、暮れも晦日近くなると心当たりの場所へ、いそいそと採りに出かけます。

通りがかった人に何を採っているんですか、とか、ハコベですねと聞かれて、ええ、鳥の餌用に、などと返事をすると、みなさん納得して安心したという顔をします。ハコベなど食べるわけがないと思っているのでしょうか。ええ、夕食のお椀に入れようと思って、などと返事をしたら、どんな反応が帰ってくるのでしょうか。

華奢なハコベも、良い所だけを丁寧に採って整理したあと、さっと水洗いし、その水を良くきっておくと、案外と長保ちします。

いかにも「草」だという青臭さがたまらない野趣となり、少し汁に放っただけでも存在感があります。花びらが深く二つに裂けているので細くて10弁のように見える白い花は、小さいわりには、良く目立ち、お洒落な雰囲気演出してくれます。

我が家では、アジを刺身にしたあとのアラは味噌汁にするのですが、味噌の味がしみた身の味は、刺身そのものより、もっと美味しいかもしれせん。

このとき、だしの素やネギなど余計なものは入れませんがハコベだけは例外です。ハコベは潮汁や雑煮など塩味が最高なのですが、薄めの味噌とアジの身の絶妙なバランスの上に、緑の香りをあしらってくれます。いずれの場合も、大事なものは、ハコベに熱が通り過ぎないように、出来上がる寸前に放つことです。

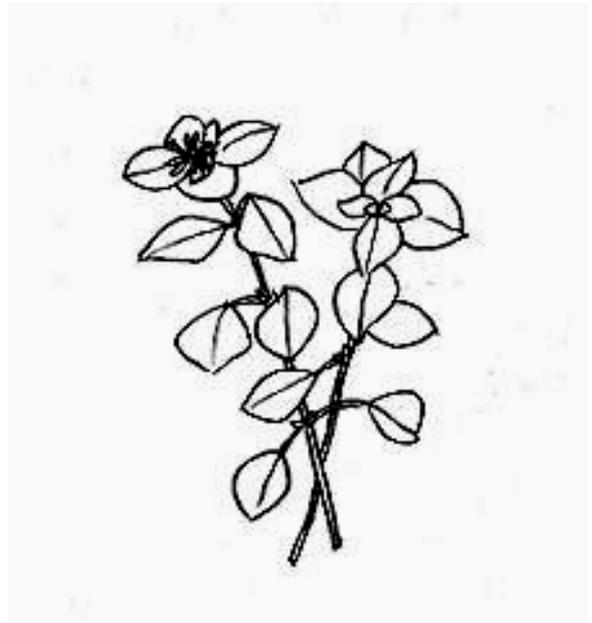
やせた土地に生えている細いハコベは、やや筋っぽいのですが、茎の先のほうだけを使えば大丈夫でしょう。

卵焼きにハコベをちぎったものを入れると、黄色に緑が映えて、それはそれは美しい一品になります。

たっぷり一握みを、電子レンジ用のラップでくるみ、ほんの数秒チーンをして、少なめにツユをかけただけのものも、季節の野の香りを楽しむ簡便法としては合格です。

有名なのはおかゆですが、サラダに入れても良いし、和え物にもなります。

腫れ物、歯痛などに薬効があり、浄血剤でもあるそうです。(つづく)



画 有田保彰

活動短信

10/25~11/22

やどりき水源林で森づくり

日 10月25日(土) 晴れ

場 やどりき水源林

参 (財) かながわトラストみどり財団

伊東専務、高橋次長、他、関係者25名

イ 森本⑤、斉藤⑥ 看 1名

新松田駅を9時に出発したマイクロバスは車中ミニ森林講話を聞きながら9時30分に到着する。

今日は、溪畔林再生と言うことで寄大橋のすぐ上流の両岸に2手に分かれ溪畔に適したサワグルミ、ミズナラ、イロハモミジ、カシラ、ケヤマハンノキ、フサザクラの六種類の広葉樹を植えた。河原で石が多かったが地拵えの時重機ショベルで穴を掘っていたので予定の400本を11時30分に終了することが出来た。早目の昼食後、Bコースの森林観察会では神奈川の森林の様子を感じとった様でした。

(記 6期 斉藤)

森林づくり体験講座 F

日 11月8日(土) 8時~15時
場 秦野市寺山・水源林ヤビツの森
参 23名
公 稲葉、鳥海、
イ L後藤⑩、佐藤(武)⑤、塩谷⑦、宮本⑧、
 内野⑨、高橋⑨、青木⑩、角田⑩、中元⑩、
 福原⑩、 研 愛木⑦、

花粉の少ないヒノキ440本、広葉樹(コナラ、ケヤキ、ヤマボウシ、ヤマザクラ、ブナ)210本の植栽を計画しました。当日は小雨のため、参加者が8名ほど少なくなり、植栽本数が1人あたり28本と予定の倍となりました。

インストラクターも参加して、1人平均20本を植栽しました。3班構成で若いグループが上、女性が多いグループが下で、残りが中腹の担当としました。最初にヒノキを苗木袋に入れて、唐鍬を持って植栽を開始しました。続いて根巻きの付いた重たい広葉樹を苗木袋で運び、植栽を完了しました。作業時間は予定を遥かに越えて13時前まで掛かりました。雨のため昼食と小沢操さんの講話はバスの中で行うことになりました。バスに入りきれなかったインストラクターには寒い思いをさせていただきました。アンケートでは8割の参加者が雨の中の作業は厳しかったと感想を書いていました。晴れ男だった会社の稲葉さん残念でした。

(記 10期 後藤)

竹林の手入れとバウムクーヘン作り

日 11月8日(土) 雨
場 小田原市いこいの森 辻村植物園
参 5家族 17名
イ 渡辺(孝)③、落合③、吉山③、斉藤⑥、

午前の竹林手入れと午後のバウムクーヘン作りの予定が雨天プログラムに変更となり、午前が多目的ホールで竹工作になった。10時より竹に関するミニ講話(斉藤)に続きバウムクーヘン用食器や菜箸、花差しを親子で作る時間の過ぎるのも忘れるほどであった。モウソウチクの桿は硬く子供の細工には苦戦していたようだ。午後は親子でレシピを見ながら落合さんの指導で生地を作る。準備しておいた竹の表面に生地をかけ火にかけて狐色に焼き又生地をかけること何十回と繰り返すうちに段々大きくなる頃には、子供達の「早く食べたいよ〜!」の声が大きくなった。すべてが焼き終わり竹から抜き取りほおぼる姿はいかにも楽しそうであった。良い体験が出来たようだ。

(記 6期 斉藤)

(株) 半導体エネルギー研究所<間伐体験>

日 11月8日(土) 小雨
場 やどりき水源林
参 21名(内、子供5名)
県 森林課・永井氏
イ L伊藤⑦、戸谷⑥、山崎⑦、

当社は、水源林パートナーになって2回目の体験活動。

朝からポツポツと断続的に降る雨の中、予定時間に到着。参加された方は大半が初めての森林体験。早速、休憩棟の中でインストラクターから間伐時の注意事項等の説明と簡単なストレッチ体操行う。現場に向う途中でヘルメットを装着し、道具を携え間伐現場に向かう。到着したところで、各班担当のインストラクターから安全な間伐の方法と再度注意事項の話。ノコギリを持って予め指定されたヒノキを間伐する。終了後、薄暗いヒノキ林に光が入り明るくなった臨床を見て、間伐の意義を理解して貰ったと思う。そぼ降る雨の中で約1時間の間伐を終了。間伐の帰り道、自然観察をしながら、山を降り道具の手入れをしたあと感想を聞き午後12時20分解散。今回、初めて参加の方が多かったが「又、来たいと」声が多く楽しい体験の1日となった様だ

(記 7期 伊藤)。

森林づくり友の会 会員のつどい

日 11月9日(日) 9時~16時
場 秦野市寺山・水源林ヤビツの森
参 57名
友の会 仲野、額田、島岡、
公 茂木、河野、 看 小林
イ 島岡③、久保⑧、中島⑨、内野⑨、酒井⑩、後藤⑩、

当日は曇りで参加者も10名ほど少なくなりました。6班構成で広葉樹(コナラ、ケヤキ、ヤマボウシ、ヤマザクラ、ブナ)を280本植栽しました。午前中は曇りで作業も順調に行われました。昼食後ポツリポツリと雨が降ってきましたが、大山山頂が明るいので大丈夫と判断して、自然観察会を決行(ヤビツの森~岳の台~菩提峠 行程2時間)しましたが雨は止まずに参加者の皆さんには寒い思いをさせていただきました。

いつも参加していただいている、ムクロジをくれたおばあちゃんお疲れ様でした。「これが最後かネー、このメンバーで、また行きたいネー」と。

晴れ女だった会社の河野さん残念でした。

(記 10期 後藤)

平成20年度 成長の森見学会

日 11月9日(日)
場 やどりき水源林
参 176名
県 内海担当課長、他スタッフ22名
イ 柏倉④、高崎④、相馬⑤、須長⑥、愛木⑦、武者⑦、福島⑨、大澤⑩、

11月9日、わが子・わが孫の健やかな成長を願って、苗木を寄付された方々が、その植栽地を見に来られました。

当然のことながら、皆さんお子さん連れです。到着のバス単位で、順次現場へ出発。

私の担当、5台目の最終バスは、何と二家族のみ。1歳の女の子と5歳くらいのお姉ちゃん。おんぶされた妹の状況を、後ろの見えないお母ちゃんに逐一報告する姿がけなげ。お父ちゃんは“我関せず”と、周囲の山々を眺めています。

もう一組は、今年2月生まれの『すず』ちゃん。だっこ紐を肩にかけるのはパパ。林道から山道に変わる地点、集材機のワイヤーが斜面のずっと上まで伸びています。その終点が今日の目的地と説明し、登る覚悟を決めてもらう。モモンガの巣箱、ミツマタの群落を見る頃には植栽地に到着。早速、銘板にわが子・わが孫の名前をみつけ、皆さん大喜び。『すず』ちゃん、パパ・ママにならって、一瞬、自分のネームプレートを指差す。シャッターチャンス逃したパパ、『もう一度お願い!』と土下座。わかったような顔をしているのが、何とも可愛らしい。

このお子さん達の、幸多く、すこやかな成長を祈らずにはおれませんでした。

(記 10期 大澤)

やどりき水源林・枝打ち・間伐

日 11月15日(土) 10時半~12時半

場 やどりき水源林

参 キリンビール横浜工場 43名

県 金田、

イ 山崎⑦、海野⑩、大澤⑩、松山⑩、久保寺⑦、

やどりき水源林周辺の紅葉もすすみ、晩秋を感じさせるなかでのパートナー林活動でした。主催者の到着遅れも少々あり、倉庫前での作業説明・注意とストレッチを終え現場に到着したのは10時半過ぎになってしまった。5班に分かれ間伐作業開始するが、現場が急峻なこともあり足場の安全確保には特に注意する。伐倒一枝払い一玉切り一間伐材整理の作業も1時間もするとスムーズに進むが残り時間も少なくなる。間伐本数は各班3~4本であったが、参加者にはそれなりの充実感と作業内容を理解してもらえたのでは。12時20分作業を終了する。

今回の作業時間は正味1時間30分程と短かったので、次回はいちもう少し時間をいただけるよう主催者をお願いする次第です。

(記 7期 久保寺)

日立電子サービス(株) 間伐&ベンチづくり

日 11月22日(土) 晴れ 10時~12時半

場 やどりき水源林

参 12名

県 金田、小司、

イ 柏倉④、久保⑧、

間伐のやり方について実物の見本を示しながら説明しベンチづくりについては図をもとに製作方法を話す。50年生の杉を3本、それぞれ一発で抜倒し、思わず拍手しあう。

ベンチは2脚(1脚は鋸を使って組み立て・1脚は丸太を5本並べて直置き)づくり、次回からは仲間の休息の場となると一様に満足げであった。

(記 4期 柏倉)

県央地域水源林ツアー

日 11月22日(土) 9時半~15時半

場 厚木市七沢水源林(半谷)、宮が瀬ダム、相模湖町与瀬水源林(貝沢)

参 一般応募者:33名

県 茂木部長・阿部課長・他10余名

イ 渡辺(孝)③、高崎④、武者⑦、塩谷⑦、

今回のツアーは県央地域県政総合センターが主催で、初めて企画されたイベントであった。

水源林の現状、県の取り組み方、整備の状況など、広く県民に知ってもらおう事がねらい。

当日は、4班編成で愛甲石田から専用バスにのり、最初に七沢水源林[半谷]を訪ねた。

ここは寄付林で、一回、間伐、受光伐、枝打ちを実施した場所で、明るさもあり、入り口の森林(私林)との対比が出来た。しかし、まだ下草などの出現は不十分な状況であった。

次に宮が瀬ダムを見学し、ふれあいの館で昼食。午後は、相模湖町与瀬水源林を訪ねた。ここは協定林や分収林などいろいろな形の森で、既に2回の間伐が行われ、下草も良く生え整備された所で、参加者からも現場を見て説明を聞き、良く理解出来たと言っている。

時期的に、沿道の草花が少なく、冬イチゴを試食し、わずかなシロヨメナやアキノタムラソウ、ヤクシノウなど、アブラチャン、フユザンショウ、コクサギ、などを紹介した。参加者は、やまなみグッズの「はちみつ」をお土産にJR橋本駅で解散した。

(記 7期 塩谷)

里山ボランティア育成講座

日 11月22日(土)

場 川崎・等々力緑地ふるさとの森

参 一般市民 36名

スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか 4名

イ 井口⑧、伊藤⑦、清水⑧、野田⑧、渡辺⑦、松崎⑤、

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズの第一回目。このシリーズは、川崎市が「魅力ある花と緑の街づくり」を目指して行政と市民との協働によるパートナーシップ型事業として展開していこうというもの。抽選によって選ばれた市民36名が参加。今回は等々力緑地という典型的な都市型公園の中のあるさとの森というところで行われ、午前中はあらかじめ選定しておいた樹木数本の伐採、枝払い、玉切り作業を行った。初心者、ベテラン入り混じっての作業だったが無事怪我も無く終了。午後は協会が別途雇ったプロナチュラリストによる自然観察会が行われ、6名のインストラクターはサポートにまわった。

(記 5期 松崎)

神奈川県治山林道協会会報をご紹介します。

「緑の斜面」45号/平成20年11/30発行

表紙は2010年春開催の全国植樹祭シンボルマークの「かなりんちゃん」と鷹ノ巣山林道ウオークの写真そして、私達に興味深いことが盛り沢山の目次・森のニュース:第61回全国植樹祭に向けて、ヤマビル対策 /わが市、わが町:寒川町/森の知識:森林の区分、写真コンクール/お知らせ/林道ウオークアンケート/あの森を訪ねて:春岳水源林/林道テクテク:「丹沢林道と柏木林道」/詳細は別冊にて。

**やどりき水源林
ミニガイド**

12月のトピックス

- ・Bコースの工事が終了。安心して歩けるようになりました。



1月の水源林

- ・1月17日にやどりき水源林で山神祭が行われます。
- ・花芽・葉芽や野鳥観察が引き続き楽しめます。

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度（冬季休止）
 - 集合：水源林入口ゲート前
 - 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
- 参加自由、参加費無料
*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわ森林づくり公社 県民運動課
Tel 0465-85-1900
 - ホームページ：
http://www.ny.airnet.ne.jp/k_sirin/
 - やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



「森の写真コンクール」作品募集

森林に関する写真でしたら、なんでも結構
応募締め切り：平成21年2月27日(金)
応募先：〒231-0002 横浜市中区海岸通
1-2-2 神奈川県治山林道協会
電話：045-201-8292・
応募作品：未発表作品・1枚写真(1枚で
テーマ完結)・デジタル、フィルムカメラ
で撮影可・作品は、カラープリント・
サイズは4切り

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

<①手書き原稿送り先>

森 義徳
〒232-0053
横浜市内南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>

<②メール原稿送り先>

【本誌】村井正孝
〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax：045-476-4112
Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp
【別冊】金森 巖
〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax：045-961-6695
Mail：ik_forester@jcom.home.ne.jp
【CCで】森本正信
〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax：042-796-6011
Mail：morimoto@bikkuri.co.jp
原稿の締切は毎月20日です。

◆ 編集後記 ◆

★勤務先から双眼鏡を無償で貸し出せることになりました。1度に30台、一般対象の探鳥会など要望がありましたらご連絡ください。(金森)

★若者の間に、チェンソウ(総)なるものが新言葉があるそうです。オバマさんのYes We Canはアメリカの流行り言葉、経済不況の震源地はUSAだが、国のトップの早変りに、日本の行く末大丈夫?せめて神奈川県森林環境保護は、Yes We Canと新年に向い胸を張って応えたい。着実に。(鈴木)

★新年おめでとうございます。皆様風邪など引かず元気にフィールドへお出かけください。今年も編集のお手伝い大いに楽しみます。(妻と共に) (森)

★ここ数年来、自分にとっての1年の区切りは、やどりきで行われる山の神祭です。静かな森の中の祠の前で行われる神事で、身も心も引き締まります。(井出)

★明けまして、おめでとうございます。旧年中は、何かとお世話さまでした。難有るもまた有難し。ノウハウも吸収でき、今年は再生請負人デビューも視野に入れています。(森本)

★明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。暮れには取材を兼ねて水源林最高峰・鍋割山を歩いてきました。(村井)

◇年間購読のお申し込み

・「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。
郵便振替口座00230-0-2454
・かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。
振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。
(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信
広報部：井出恒夫、鈴木松弘、
村井正孝、金森 巖
森 義徳

ヤマケイ・カルチャークラブ ●山岳ライター石丸哲也氏同行

「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。

をくづれ水仙郷 日帰り	蓑山 日帰り	真教寺尾根(下部) 日帰り
出発日：1/15(木)～ 横浜駅西口天理ビル前 7:30集合	出発日：2/19(木)～ 横浜駅西口天理ビル前 7:30集合	出発日：2/28(土)～ 新宿駅西口スバルビル前 7:30集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。

ALPINE ツア サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル
Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com
<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。